

米サーファー誌の創始者として知られるジョン・セバーソン。  
そんな彼は兵役から解放されダナポイントへ戻ると、映画製作に講じました。  
処女作「SURF」の成功に続き1959年にリリースしたタイトルは「SURF SAFARI」。  
音響と映像がシンクロしたサーフムービーは、かのビーチボーイズにも影響を与えるほど。  
彼らが1962年にデビューした際のファーストアルバムの名前も「SURFIN SAFARI」でした。  
サーフィンが自由の象徴だった当時からしばらくの間、今でいうサーフトリップはサーフィン・サファリと呼ばれていました。  
自由気ままなサーファーの旅。波を追い求める道程にはさまざまな出会いや発見に溢れています。  
既成のパッケージプランでは味わうことはできない、オリジナルなサーフィン・サファリにでかけませんか？

Surfing Safari

大特集

サーフィン・サファリしたい！

## サーフィンという名の自由を求めて、 我々は旅に出かける

最高の波を探し求め、トリップに出かける——カリフォルニアでこんな発想が生まれたのははるか昔、1920年代のことだった。パロスヴェルデス(Palo Verde)コープやサンタクルーズのコーウェルズなどでは当時もローカルサーファーたちがクォリテイの高い波でサーフィンを楽しんでいたが、そんな彼らにもやはり他のブレイクでサーフしてみたいという欲求があった。見たことも聞いたこともない、延々とロングライドできてサイズのある波。しばらくすると、そんな波を捜し出すうとする探検は、アフリカから大型の種物を持ち帰るハンターたちになぞらえてサファリと呼ばれるようになる。

12フィートから16フィートの長さがあるパドルボード・スタイルのボードを自由に操るためには、スローなフラットフェイスの波が必要になる。新たなスポットを捜すにしても、やっぱりそれはワイキキ沿いにあるようなブレイクでなくてはならない。

1920年代から1930年代にかけてのカリフォルニアでもうともホビニラーなサーフ・サファリといえは、当時はLAから車で約2時間かけて南下していたサンオンフレのブレイク。もともとはパイオニアサーファーであるロリン・ホワイティ、ハリソンが1920年代後半にこのブレイクを発見し、その後間もなくサンディエゴのノースカウンティにワイキキそっくりな波があるらしいといううわさが北のPVコープ・エリアにまで広まる。しかもアワビやロブスターも

極上だという話。という感じで、ここからサーフ・サファリという考え方が誕生した。

そしてそれ以後パロスヴェルデス、マンハッタン、サンフェルナンド・バレーなどのサーファーたちは、週末になるとこの美村で美しいブレイクへ通うようになった。アロハシャツを着た彼らはそこでウクレレを弾きながらルアウを楽しみ、ハワイのウエイブライディング・カルチャーをそっくりそのまま真似た時間を過ごしていたのである。車にはヘビーなボードとキャンブ用品を満載して週末の(ロードトリップ)に出かける、というトラディションはその後各世代に受け継がれていくことになる。

さらに何年か経つと、彼らのサーフ・サファリ・トリップはティファナ・スロー(インペリアル・ビーチ)などもっと遠く美知のスポットにま

